

書名	著者	出版社	価格	内容
明治維新とは何だったのか - 世界史から考える	半藤一利・出口治明	祥伝社	1,650	江戸幕末から明治の日本を形成しており、世を見据え、実行できる人こそがいたからこそ今の日本があります。「広く世界を見ること」は常に持ち、情報を多元的に仕入て、考えることは忘れてはなりません。
それでも、日本人は「戦争」を選んだ	加藤陽子	新潮文庫	880	明治以来、四つの対外戦争を戦った日本。本当にこれで良かったのか？鋭い質疑応答と縦横無尽に繰り出す史料が行き交う中高生への5日間の集中講義を通して、過去の戦争を現実の緊張感のなかで生き、考える日本近現代史。
国土が日本人の謎を解く	大石久和	産経新聞出版	968	人はその生まれ育った国土に影響を受けます。建設省入省からずっと国土のことを考え、改良し続けてきた大石氏の、国土から見た国家論はとてもわかり易く、特に外国と日本の対比においてこれほど納得できた説はありません。日本人の国民性がよくわかります。
座右の書『貞観政要』 中国古典に学ぶ「世界最高のリーダー論	出口治明	角川新書	946	『貞観政要』は経営者にとっては非常に高価値の古典です。北条政子、徳川家康、明治天皇も愛読しており、「時代を超えた普遍的リーダーシップ」が凝縮されています。
38億年の生命史に学ぶ生存戦略	稲垣栄洋	PHP研究所	1,650	動植物の進化における戦略はまさに人の生き方やビジネスでも有効です。生存競争において、各々の動植物は「ナンバー1」であり、「オンリー1」の存在です。強者が生き残るのではなく、生き残った者が強者です。生き残りやすいニッチを求めて、自分の居場所を確保しています。つまり、「ずらす」ことによって、棲み分けを行っています。彼らの素晴らしい点は「戦わない」でずれる。
宮大工棟梁・西岡常一「口伝」の重み	西岡常一	日経ビジネス人文庫	765	法隆寺宮大工・西岡常一氏は法隆寺の昭和の大修理に立ち向かい、解体してその木の使われ方などを研究すると、飛鳥建築の工法を理解することになり、そういう意味では1300年を超える時空を巡ることになります。当時の職人の木造建築の思想には圧倒されました。自然を畏怖し、木の命をいかにして永らえさせる工法にするかが徹底的に考えられています。自然に則った建築とは？また、棟梁としての組織のつくり方などとても参考になります。
愛の鬼才 西村久蔵の歩んだ道	三浦綾子	小学館文庫	825	この人の困っている人への援助は半端ではありません。損得勘定やより豊かに生きたいと思うのがこの世の中の常識とすれば、他利を徹底的に追及し、どんな人にも敬意を払い、人の心に灯りをともし続ける「潔い」人からは学ぶことばかりです。コロナの今だから読んでほしい。
代表的日本人	内村鑑三	致知出版社	1,540	明治になり、日本のなんたるかを世界、特に欧米キリスト社会へ紹介した三大名著の一冊です。書名の通り、日本人の代表的な素質の持ち主五名、西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹、日蓮上人の伝記です。日本人の根本がわかります。